

四月三〇日

七時前起床。八時河野鉄工来世田谷。第二期工事現場開始。九時半まで見る。十時半研究室幸脇夫妻来室。十三時グリーン・アロー小川さん来室、Memo小特集の件。十四時青森はくちよう家族会会長さん来室。十六時学科会議室入江主任。戸田育英財団来室。十六時半研究室退。十七時四〇分世田谷村現場。地下室の穴をとり囲む壁が一枚出来上っていた。よろしい。考えていた通りのモノである。鉄の壁一枚建ち上ったくらいでこんなに嬉しいのは我ながらおかしい。やっぱり自分は根っからの鉄好きなどころがあるのが解る。

夜、「室内」連載を何回分か読み返してみた。同じ事を繰り返して書いているところがあつて一人冷汗をかいた。キチンとしなければいけない。

五月一日

五時二〇分起床。チョツと変なアイデアが浮かんできたのでスケッチに残しておこう。世田谷村の地下のエクステンションを考えていたら、そのアイデアが独人歩きして別の方向に進展しそうだ。こんな建築できたら面白いのにナア。

屋上菜園に生ゴミを埋め、雑草抜きをしぼし。八時前河野鉄工来村。すぐに工事始める。現場で階段のデザインする。今、工場にあるという材料を使って大方のことを決めた。連休中は工事が

出来ないの、工場で階段を作ると言っている。十一時頃研究室。十二時高橋さん夫妻来室。明るいなこの夫婦は。面白いモノを作つて差し上げよう。演習Gを見て、世田谷村の現場へ。壁が少しづつ出来上っている。石井、上田を連れてきたので、現場の床にチョークで原寸図を描かせて鉄というモノ自体を教える。まだ少し早いかとも思ったが鉄は熱いうちにたたけというのがあからね。物質の性向を身体で理解しなければ、設計しても面白くないだろうと思うからだ。この現場で見所のあるのは教え込みでみよう。現場というのは物質が赤裸々に露出して、物体の展示場みたいで、それだからこそ面白いのだ。研究室OBの関岡英之君から最新著文春新書「拒否できない日本・アメリカの日本改造が進んでいる」送られてきた。彼の事は気になつてはいるのだがどうにもしてあげる事ができずにいるのだが、とり敢えず元気にしているようで、ホツとした。建築家としてはまだ口クな人間が育っていないけれど、他の分野に進んだ者は少しずつ成果を挙げ始めているようだ。関岡君には読了後感想文でも送ってみようかと考えた。